

地域から信頼され
中核病院の使命を果たす



鳥取県立厚生病院
Tottori Prefectural Kousei Hospital

病院
案内





鳥取県立厚生病院

基本理念

- ◇ 思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院
- ◇ 優れた医療を提供し、地域と密着した病院
- ◇ 職員の和を尊び、働きがいのある病院

基本方針

患者の権利を尊重し、地域の中核病院として高度で安全な医療を提供します。

- ◇ 救急医療・災害時医療機能を充実させます。
- ◇ がん診療等、高度医療への確に対応します。
- ◇ 周産期医療、小児医療等の一層の充実を図ります。
- ◇ 臨床研修病院として次世代を担う人材を育成します。

患者権利章典

1. 公平に、良質な医療を受ける権利があります。
2. 一人の人間として、人格、価値観等を尊重され、医療を受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見通し等について、十分な説明と情報を納得できるまで受けとる権利があります。また、セカンドオピニオンを求める権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、治療方針等を自らの意思で選択し、決定する権利があります。また、検査や治療の同意を撤回する権利があります。
5. 自分の診療記録の開示を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報は、第三者にさらされないよう守られる権利があります。



災害拠点病院

鳥取県中部地区で唯一の災害拠点病院として
災害医療の中心的な役割を果たします

H28年鳥取県中部地震直後の厚生病院近隣の状況

災害対応

平成28年の鳥取県中部地震発災直後に対策本部を設置し、傷病者の受入れ、他院の情報収集と東部、西部地区への患者搬送の調整を行いました。



防災訓練

災害時に備え、毎年職員による訓練を実施しています。



災害派遣

平成28年4月発生の熊本地震発では、熊本市と阿蘇市で災害派遣医療チーム(DMAT)が避難所調査や診療に従事しました。



重点医療



救急医療

24時間体制で、専門性に応じた救急医療を提供しています。当院を受診される救急患者は年間約15,000名(40%が小児)、救急車で搬送される患者は約2,900名で、鳥取県中部地区の救急医療における要としての役割を担っています。屋上にはヘリポートを有し、ヘリコプターによる救急患者の受入れも行っています。



脳卒中

当院は、一次脳卒中センターです。急性期脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)診療に重点を置き24時間体制で救急患者受け入れを行っています。血栓溶解療法、血管内治療、直達手術など常時専門的先進治療をチームで担っています。急性期脳血管リハビリテーションもPT、OT、STが結集し対応しています。急性期後は脳卒中地域連携パス導入により、後遺症を抱える患者の職場復帰、生活支援、介護、療養への橋渡しを医療ソーシャルワーカー(MSW)中心に多職種で行っています。



心筋梗塞

急性心筋梗塞を発症すると短時間のうちに全身状態が悪くなっていき、死亡率も高いため、一刻も早く冠動脈の血流を再開させることが大切です。当院では循環器専門医が毎日待機しており、急性心筋梗塞に対するカテーテル治療を24時間いつでも行える体制をとっています。また、心筋梗塞を予防するために危険因子の管理や冠動脈疾患を早期に発見するための検査にも力を入れています。



がん治療 (地域がん診療連携拠点病院)

2003年に厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。鳥取県中部地区のがん診療の中心的役割を担う中核病院として、地域の医療機関と緊密な連携を保ちながら、専門性の高い良質ながん医療を提供しています。

(主な役割)

1. わが国に多い5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)について、集学的治療および各学会の診療ガイドラインに基づく標準的治療を提供
2. 外来化学療法室での安全性の高い化学療法を提供する
3. 放射線治療を提供
4. 緩和ケアチームを中心とした緩和医療を提供

これらの役割を担うためのソフト、ハード面の充実に努めています。



小児医療

当院は、鳥取県中部地区で唯一の小児科入院施設です。一般小児診療に加え、小児腎疾患、小児循環器疾患、小児神経疾患・発達障害、小児内分泌疾患の専門外来、小児救急、新生児医療に対応しています。小児救急診療は、地域の小児科医と協力し、時間外救急診療を行っています。乳幼児健診、ワクチン接種などの地域保健活動も行っています。

周産期医療

鳥取県中部地区で唯一の周産期医療提供病院として、良質で思いやりのある周産期医療を提供しています。産科医による一般の妊娠・分娩管理に加え、総合・地域母子医療センターと連携しながらハイリスク妊娠・分娩を取り扱っています。



妊娠24週以降の妊婦に対して助産師外来を設けています。分娩はLDRを使用し、大切なひとときを家族と過ごすことができます。



認定施設



第一種・二種感染症指定医療機関

感染症指定医療機関として、特定の感染症に対する医療が安全に受けられる環境を提供するとともに、感染管理認定看護師による院内感染防止対策の実施や職員への教育、感染症患者対応訓練を行っています。薬剤耐性対策アクションプランに基づき、抗微生物薬の適正使用を推進しています。

地域医療支援病院

平成30年に鳥取県知事から地域医療支援病院の承認を受けています。今後も地域の医療機関との相互連携を一層すすめて、鳥取県中部地区の医療の充実を図るよう努めていきます。

地域医療支援病院の主な要件と役割は以下のとおりです。

1. 他の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供、かかりつけ医への紹介(逆紹介)
2. 病院施設、医療機器(CT、MRI等)の共同利用の実施
3. 救急医療の提供
4. 地域の医療従事者の資質向上を図るための研修の実施



施設認定一覧(一部)

- 第一種・二種感染症指定医療機関
- 災害拠点病院
- 臨床研修病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 保険医療機関指定
- 地域医療支援病院
- エイズ協力病院
- 脳死下臓器提供施設
- 日本医療機能評価機構3rd G:Ver.2.0認定
- 各種学会認定施設





高度医療

充実した設備と
安全な運用により
地域の高度医療を支える

鳥取県中部地区の基幹病院として、各専門分野の高度医療に対応する設備と人材を備えています。地域最大の手術室(5室)、地域唯一のHCU(10床)、24時間運用の救急治療室、新生児治療室等を設置し、放射線関連の診断・治療機器として、リニアック、アンギオ、MRI、CT等を24時間稼働できる体制を整備しています。



救急治療室



手術室



HCU(高度治療室)



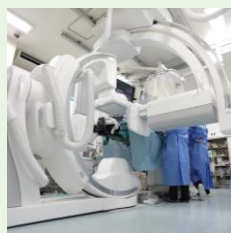
新生児治療室

中央放射線室

各種のがんや心血管病(心筋梗塞、脳卒中等)の高度医療(診断・治療)に対応します。



リニアック
(放射線治療)



アンギオ
(血管撮影)



MRI



CT



マンモグラフィー
(乳腺検査)



骨塩定量+X線
TV(骨粗鬆症検査)





地域連携センター がん相談支援センター

医療福祉相談

病気の療養に伴う社会的、経済的問題など、生活問題全般の相談を医療ソーシャルワーカーがお受けしています。相談内容によって、医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士など様々な職種と協働し、ご本人やご家族、支援者と共に考え解決へのお手伝いをしています。

がん相談

専門の研修を受けた看護師や臨床心理士が、がんに関する様々な相談をお受けしています。認定看護師や栄養士などいろいろな職種と協力して患者をサポートしています。不安なことや困りごとがあるとき、お話を聞いてほしいときなど、いつでも相談に乗らせていただきます。

退院支援

地域の医療関係者と連携しながら、患者が治療を終え、安心して元の生活の場に退院できるよう、意思決定、受容、自立などの面から、ご本人やご家族の気持ちに寄り添った退院支援を行います。

退院前訪問 退院後訪問

多職種の地域の関係者と連携し、退院前後に自宅を訪問します。療養環境や家族の介護力などを総合的・継続的に評価し、できるだけ長く在宅で安心して過ごせるよう支援しています。



はたらく人



心のこもった対応で
やさしく安心な医療を

たくさんのスペシャリストたちがそれぞれの専門性を活かし、認め合い、高め合いながら、一人ひとりの患者のため、今日も笑顔で働いています。



医師

治療の最前線に立ち、患者主体の医療を提供します。



看護師

治療介助、看護を患者に寄り添いながらサポートします。



看護助手

患者の身の回りの事を看護師と共にサポートします。



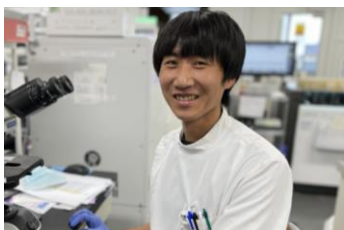
臨床心理士(公認心理師)

心理アセスメントを行い、患者や医療者をサポートしています。



薬剤師

薬を正しく服用できるように、患者をサポートしています。



臨床検査技師

検査を担当し迅速で正確なデータを主治医に届けます。



診療放射線技師

放射線を使用する検査やMRI検査を担当しています。



管理栄養士

患者に合った栄養管理を行い食事の面から治療をサポートします。



臨床工学技士

高度な医療機器の操作や安全管理を行っています。



理学療法士・作業療法士 言語聴覚士

身体運動や機能の低下に対してリハビリテーションを行います。



医療ソーシャルワーカー (MSW)

退院・転院支援、社会復帰支援、生活でのアドバイスなどをします。



事務職員

適切な医療提供ができるよう医療職を的確にサポートしています。



手話通訳士・要約筆記者

聞こえない・聞こえにくい方の意思疎通をサポートしています。



人材育成



臨床研修医

患者－医師関係、チーム医療、問題対応能力、安全管理、症例呈示、医療の社会性に関する行動目標と経験目標を設定します。医師としての人格を磨き、将来の専門性にかかわらず、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるように、プライマリケアの基本的な診療能力(態度・技能・知識)を身に付けることを研修理念としています。



鳥取県立厚生病院 臨床研修プログラム(2021年4月～)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科(24週)						救急・麻酔科(12週)			外科(4週～12週)		一般外来(4週)
2年次	小児科(4週)	産婦人科(4週)	精神科(4週)	地域医療(4週)	自由選択科目(36週)							

上記を基本にプログラムローテーションは相談の上決めます。2年次ローテーションを1年次に前倒しで行う場合もあります。

協力病院、協力施設
 精神科 → 鳥取大学医学部附属病院、倉吉病院
 地域医療 → 藤井政雄記念病院、倉吉保健所、米子保健所、三朝温泉病院
 各診療科 → 鳥取大学医学部附属病院、野島病院



看護師



クリニカルリーダーシステム

看護師が、看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識・技術・態度の向上を促すための、継続した学習を支援するシステムです。また、個々および組織の目標をふまえたキャリアをデザインし、自己の責任でその目標達成に必要な能力の向上に取り組むキャリア発達を支援します。

管理リーダーシステム

人を育成しながら組織運営に関わる資質を高めることを目的として、当院看護管理者を支援するシステムです。また、病院管理者を実践する際に必要となる能力向上を目指し、キャリアを促進、支援するシステムとなっています。

認定看護師・特定行為看護師

認定看護師と特定行為看護師が活躍しています。認定看護師とは、専門分野における熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護を提供できる看護師のことです。医療や看護の質の向上だけでなく教育にも関わり、職員の知識や技術のレベルアップにつながっています。特定行為看護師とは認定看護師教育に加え、特定行為研修を受講しており、特定の医療処置をタイムリーに対応できる看護師です。



地域交流・院内イベント



地域のみなさまに安心して受診していただける病院であり続けるため、開かれた病院を目指しています。地元倉吉市のまつりには、最大規模の団体として参加し、地域を盛り上げています。院内では、季節を感じていただける、七夕やクリスマスイベント、職員の家族に働く姿を見てもらう家族の参観日も好評です。また、職員間の交流も盛んで、新人歓迎イベント、スポーツ大会、職員旅行、忘年会などがあります。



私たちの厚生病院

We work as a team. Sometimes
it's tough, sometimes it's fun, and
I always take medical care seriously.



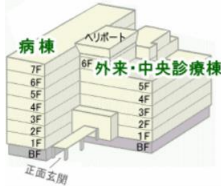
鳥取県立厚生病院の沿革



昭和 5年		「有限責任利用組合 厚生病院」開設（日本初の産業組合立総合病院）
昭和38年	4月	県に移管 鳥取県立厚生病院開設（以下9科を標榜） 内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、理学診療科、小児科、 皮膚泌尿器科、整形外科
昭和38年	12月	倉吉市下田中に新築移転（許可病床200床） 一般病床200床、伝染病床34床 総合病院として診療開始
昭和40年	3月	伝染病棟増築 40床許可
昭和41年	3月	コバルト60使用許可
昭和41年	6月	放射線科新設 診療科 10科 一般病床50床増床
昭和49年	4月	麻酔科新設 診療科11科
昭和50年	4月	皮膚泌尿器科が皮膚科と泌尿器科に分離 診療科12科
昭和54年	3月	外来棟増築
昭和56年	4月	精神科新設 診療科13科
昭和61年	5月	一般病床50床増床 300床
平成 9年	4月	神経内科新設 診療科14科
平成10年	7月	循環器科、心臓血管外科新設 診療科 16科
平成11年	4月	第二種感染症指定医療機関指定（伝染病床16床 感染症病床4床）
平成11年	5月	災害拠点病院（地域災害医療センター）指定
平成13年	4月	地域医療連携室開設
平成15年	4月	臨床研修指定病院指定 医療安全対策室開設
平成15年	12月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成16年	4月	理学療法室開設 中部小児休日急患診療事業、オープンシステム開始
平成17年	4月	脳神経外科新設 診療科17科
平成19年	4月	集中治療室、臨床工学室開設
平成19年	5月	新外来・中央診療棟新築、電子カルテ導入 第一種感染症指定医療機関指定（第一種2床、第二種2床）
平成19年	7月	がん相談支援室開設
平成20年	10月	がん患者サロン「すずかけサロン」開設
平成21年	1月	図書室開設
平成21年	3月	総合健診センター廃止
平成21年	4月	呼吸器内科、消化器外科新設 診療科19科 助産師外来開設
平成21年	10月	院内保育所（キッズルーム すずかけ）開設
平成22年	4月	消化器内科新設 診療科20科 神経内科を脳神経内科に変更
平成22年	9月	中央手術センター開設
平成24年	2月	地域医療連携棟新築
平成24年	4月	地域医療連携室を地域連携センターに名称変更 初期被ばく医療機関指定
平成24年	5月	脳死下臓器提供施設適用
平成24年	12月	リニアック棟新築
平成26年	4月	病理診断科新設 診療科21科
平成28年	4月	地域包括ケア病棟開設（43床）
平成29年	6月	臨床研修・教育センター開設
平成30年	4月	がん相談支援センター開設
平成30年	6月	地域医療支援病院名称承認
令和 2年	4月	地域医療連携棟を増築し患者支援棟新設
令和 4年	2月	日本医療機能評価機構 3rd G:Ver.2.0認定
令和 5年	4月	胸部外科新設 診療科22科

院内フロア図

- 構内図
- 7階平面図
- 6階平面図
- 5階平面図
- 4階平面図
- 3階平面図
- 2階平面図
- 1階平面図**
- 地階平面図



病院概要

名称▶鳥取県立厚生病院
住所▶鳥取県倉吉市東昭和町150
種別▶一般病院、救急告示病院
建物用途▶病院304床

■ 病棟

- 地下▶栄養管理室/調理室/コントロール室
- 1階▶中央放射線室/血管造影室/リハビリテーション室/薬剤部/栄養相談室/言語聴覚室/倉吉市病児保育施設
- 2階▶病室/分娩室/新生児室/災害用備蓄倉庫
- 3階▶病室/集中治療室
- 4階▶病室
- 5階▶病室
- 6階▶病室
- 7階▶病室

■ 外来・中央診療棟

- 地下▶霊安室/解剖室/業務洗濯室
- 1階▶総合案内/受付/会計窓口/患者相談窓口/相談室/医事課/地域連携センター/外来診療室/救急外来/中央処置室/内視鏡室/防災センター/売店/ATM/夜間受付
- 2階▶外来診療室/中央検査室/院内保育所
- 3階▶手術センター/人工透析室/臨床工学室
- 4階▶医局/事務局/医療安全対策室/感染防止対策室/臨床研修・教育センター
- 5階▶医療情報管理室/会議室/図書室/レストラン
- 6階▶感染症病室
- 屋上▶緊急用ヘリポート

■ 患者支援棟

- 1階▶がん相談支援センター/入退院支援センター/すずかけサロン
- 2階▶外来治療室

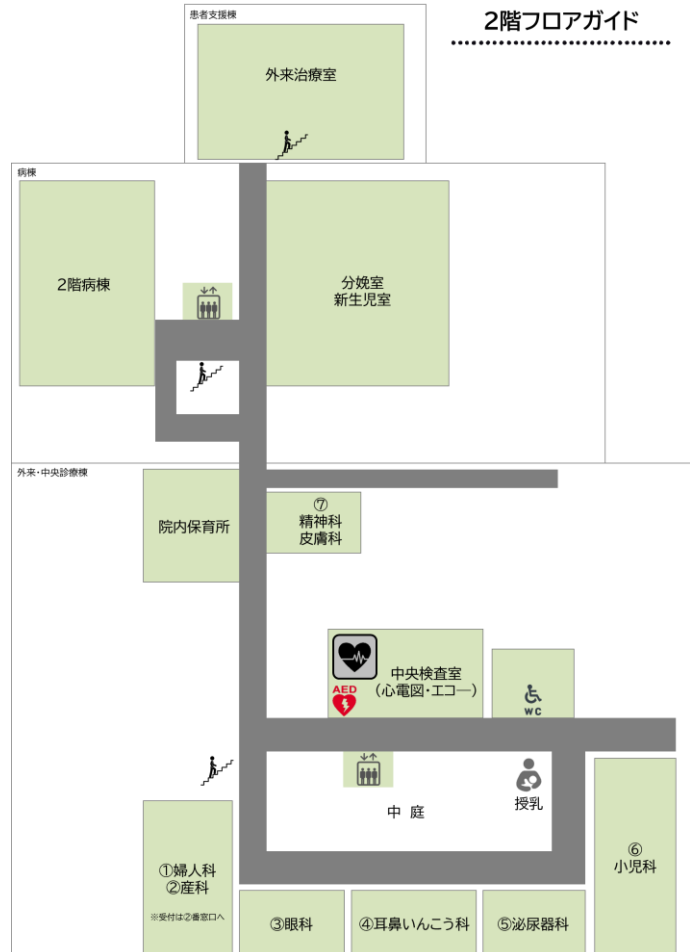
■ リニアック棟

- 1階▶放射線治療室

1階フロアガイド



2階フロアガイド



▶ 病床数(304床)

一般病床:300床 / 感染病床:4床

▶ 診療科目(22科)

内科 消化器内科 呼吸器内科 循環器内科 脳神経内科 精神科 小児科 外科 胸部外科 消化器外科
整形外科 脳神経外科 心臓血管外科 泌尿器科 産婦人科 耳鼻いんこう科 眼科 皮膚科 放射線科
リハビリテーション科 麻酔科 病理診断科

▶ 外来・診療受付時間

8:30~11:00

▶ 休診日

土曜日・日曜日・祝祭日

▶ アクセス

バスをご利用になる方

市内線ほか → 『厚生病院前』より 徒歩約1分

パークスクエア線または松崎線 → 『厚生病院正面玄関前』より すぐ

JRをご利用になる方

JR山陰本線 → 『倉吉駅』より 徒歩 約40分 倉吉駅から上記バスを利用することができます

お車でお越しの方

『倉吉駅』より 約8分

岡山・広島方面の方 米子自動車道 → 『湯原IC』より 約45分

関西方面の方 中国自動車道 → 『院庄I.C』より 約60分



鳥取県立厚生病院



〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150

TEL (0858)22-8181(代)

FAX (0858)22-1350

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyoin/>

